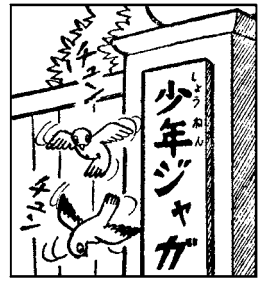
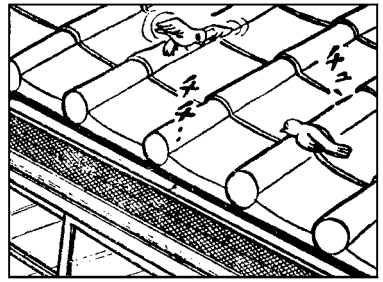
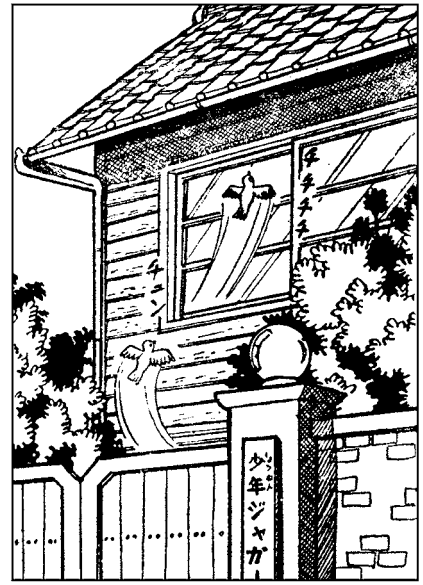
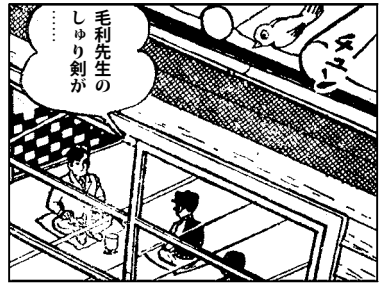
チュン
チチチチ
チュン


チュン
少年ジャガ
チュン

合宿
チュン


チュン
チチ…

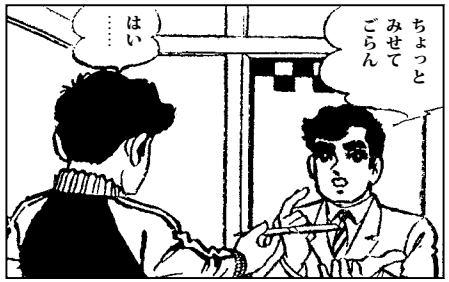

チチチチ
チュン
少年ジャガ


毛利先生の
しゅり剣が
……
チュン

なぜ 佐々木の 観念動力を やぶることができたか

毛利先生にもわからないそうです
そうか
……

毛利先生から しゅり剣を 一本もらいましたが…
いくらしゅり剣をみても かわったところはありません


ちょっとみせてごらん
はい
……

ううむ なぜこれで あのおそろしい観念動力をやぶることができたのだろう
なぜ……

それはなぜか……

……
……
わからない

そのなぞをとかないと佐々木にはかてない

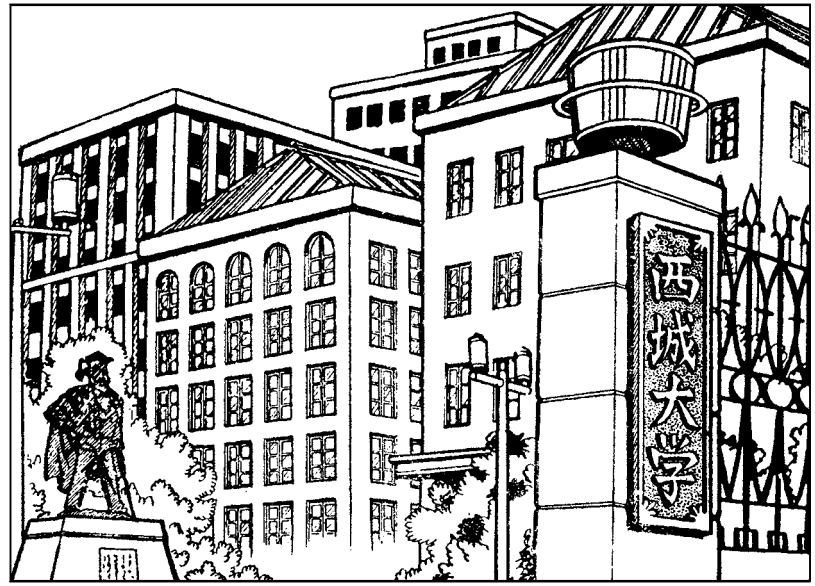
だけど毛利先生はかてたのだ……
健一にだってかてないはずはない

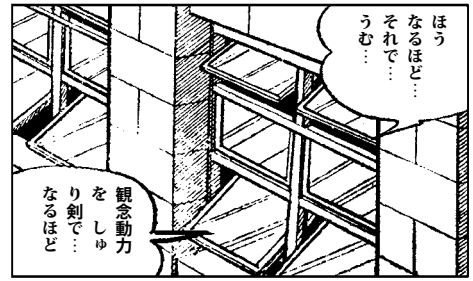
ううむ……
むずかしいもんだいだ……

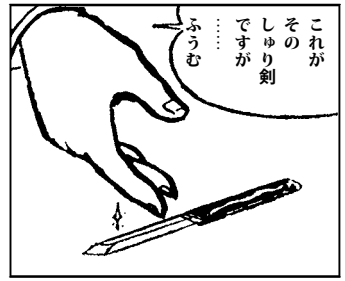
そうだ ぼくのでた大学の理学部の永井教授にきいてみよう

永井教授は日本の古武道の研究もしておられるし大学の剣道部の館長でもある

あの人にそうだんすればなぞがとけるかもしれない


西城大学


ほう なるほど… それで… うむ…
観念動力を しゅり剣で… なるほど

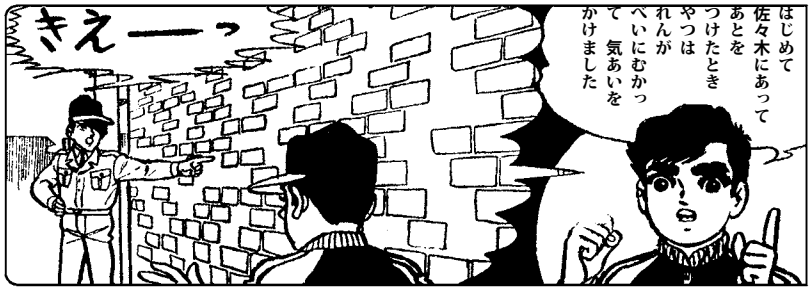

これが その しゅり剣 ですが …… ふうむ

なるほど
なか なか いい しゅり剣 ですな

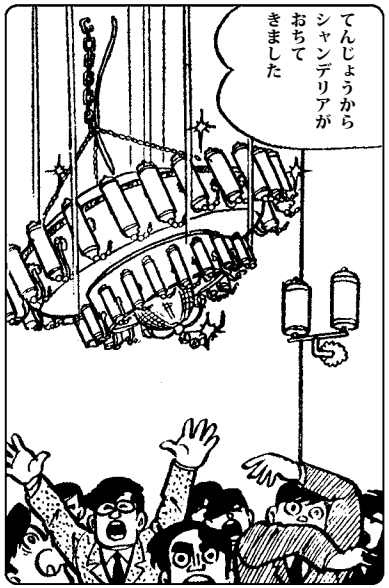
いったい どういう ことなん でしょう
とにかく 佐々木の 観念動力は すごい ものです
……

観念動力で ボールをとめて うち また 観念動力で 観客席へ もっていく
これでは どんなたま でも ホームラン できます

まさか 野球 に 観念動力 を つかって いるとは おもいません でした
そういえば ぼくには おもいあたる ことが あります あれは…


はじめて 佐々木にあって あとを つけたとき やつは れんが べいにむかって 気あいを かけました
きえーっ

れんがべい は 音を たてて くずれおち ……

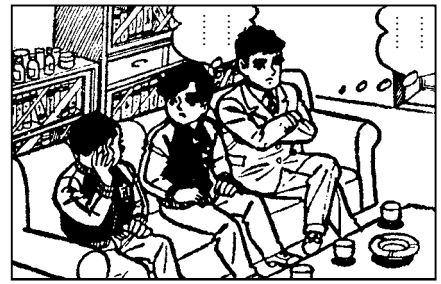

てんじょうから シャンデリアが おちて きました

ホテルの パーティー のときも シャンデリ アにむかって 気あいを かけると

とにかく おそろしい やつです

剣の達人で 超能力者 ふうむ
……

観念動力を しゅり剣が やぶった
……
ううむ
……


……
……
……

そうだ！ わたしは こうおもう のです
それほどの男 なら 忍者とし ての しゅぎょ うも 身に つけている のではないかと

忍者ですっ て……
忍者は 一日に 四十キロ もあるき また とおいところの音 やちいさな音で も ききわけます これも 超能力 ですね
ということは その男は われわ れにはきこえない 音をききとる みみを もって いるわけです

ふつうの人間 には 最低十六 サイクルから 最高二万サイク ルまでの音しか きこえません だが 忍者は それいがいの 低周波や 高周波の音を ききとることが できるのです

魚や動物の中には いくら足音を しのばせて ちか ついていっても にげてしまうもの がいます これは わたし たちにきこえない 音が きこえるから に ちがいありま せん

つまり その男 は くんれんに よって ひじょ うにたかい音や ひくい音が きこえるように なったのです

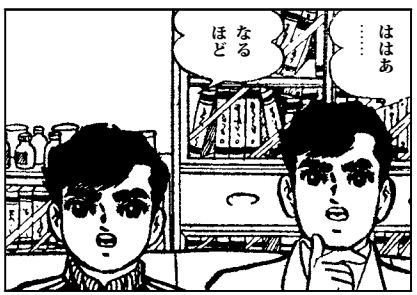
はあ
……
それで？

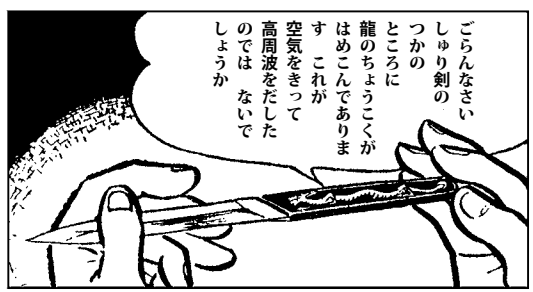
たかい音 つまり 高周波は 人間の 気もちを ふゆか いにしたり あた まをいたくしたり します もっと たかい超音波は あたまのはた らきを くるわ せてしまいます

あなたたちも ガラスを かた いものでこすって キーッという音を だすと いやなかんじに なるでしょう
ええ

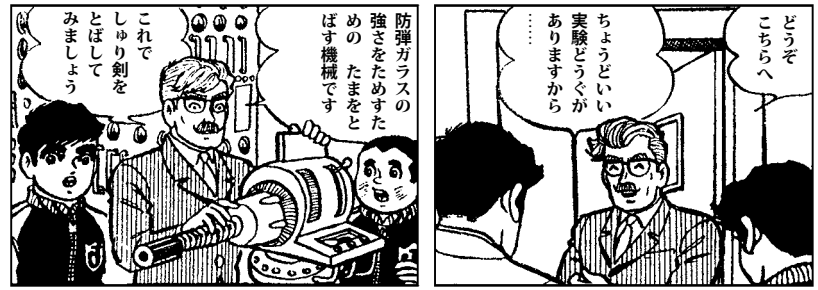
もしかすると しゅり剣が 回転 しながら すごい スピードでとんだ とき たかい 音をだした のかも しれませんよ

その音は あな たたちにはきこえ なくても 佐々木 にはきこえて 気分がわるくなり 観念動力が つかえなく なったのでは ないか かんがえ られますね

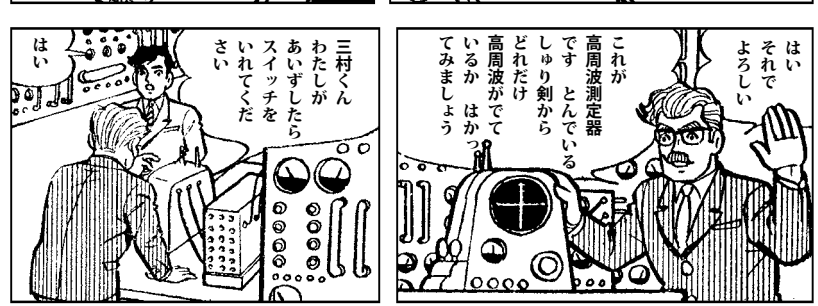

ははあ
……
なる ほど

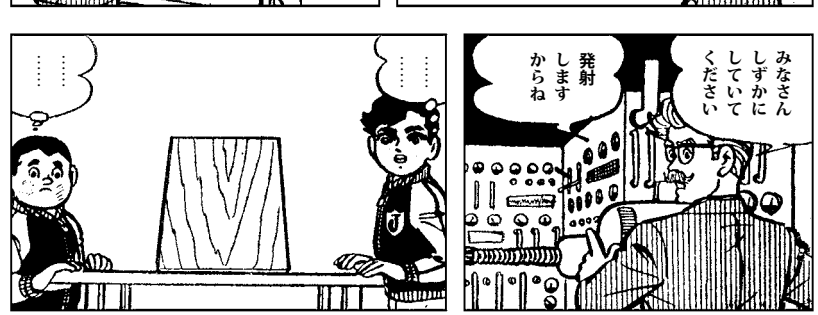

ごらんなさい しゅり剣の つかの ところに 龍のちょうこくが はめこんであります これが 空気をきって 高周波をだした のでは ないで しょうか

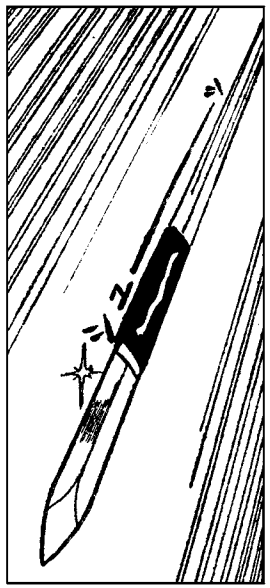
実験室へ いらっしゃい ひとつ 実験をして みましょう

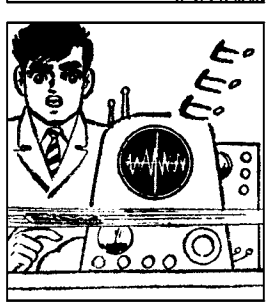

どうぞ こちらへ
ちょうどいい 実験どうぐが ありますから ……

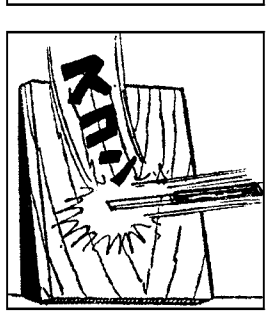
防弾ガラスの 強さをためすための たまをとばす機械です
これで しゅり剣を とばして みましょう
こう ですか
健一くん その台の上に 木のいたを たてかけて ください まとにしま しょう

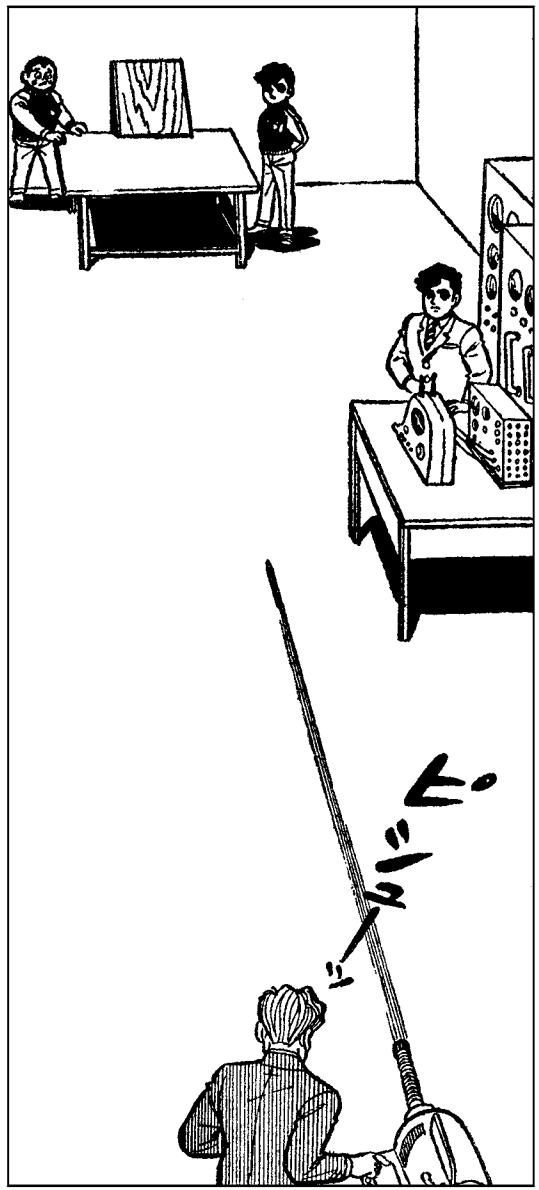

はい それで よろしい
これが 高周波測定器 です とんでいる しゅり剣から どれだけ 高周波がでて いるか はかって みましょう
三村くん わたしが あいずしたら スイッチを いれてください
はい


みなさん しずかに していて ください
発射 します からね
……
……

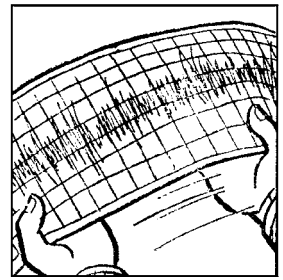

シュー


ピ ピ ピ


スコン


ビ ビ ビ ビ ビ

何万サイクルぐらいあるかな
自動てきにきろくされたグラフをみてみましょう



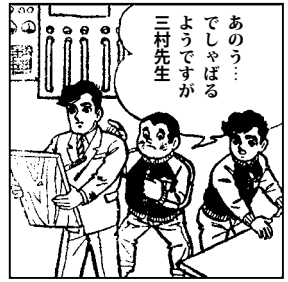
すごい！
三万八千サイクルの超音波がでています

えっ そんなにたかい超音波が！

ええ もしこの音が佐々木にきこえていたら そうとう 気分がわるくなったはずです
それで観念動力をかけることができなかったのでは ないでしょうか

そうだ しゅり剣が 回転しながらとんできたとき あいつは あたまをおさえていた

うむ 超音波をだすしゅり剣か…


あのう… でしゃばるようですが 三村先生

なんだ
超音波のでるボールをなげられないものでしょうか

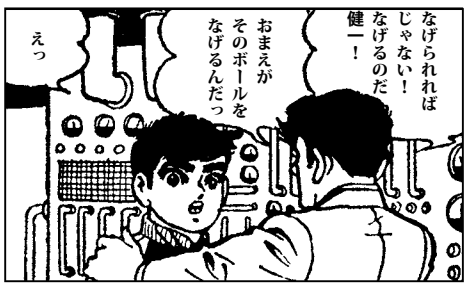
うむ おれもそのことを かんがえていたんだが しゅり剣にはめこんだ ちょうこくが 空気をきったから 超音波がでた
だけど ボールはつるつるでまんまるだ

超音波をだすのは むり…
いや まてよ

ボールには ぬいめがある
ぬいめが 空気をきれば……

超スピードの ボールが すごく 回転すれば 超音波を だす ことができる かもしれんぞ

健一 おまえは どう おもうか
たしかに そんなボールをなげられれば 超音波が…


なげられれば じゃない！ なげるのだ 健一！
おまえが そのボールを なげるんだっ
えっ

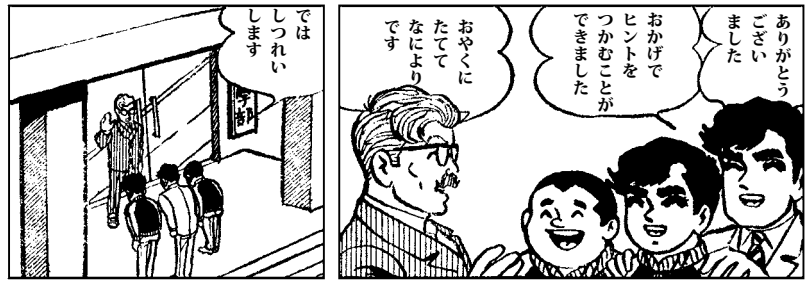
ぼくが……
ぼくに そんなたまが なげられる でしょうか

やってくれ くるしいだろうが それを のりこえて やってくれ
毛利先生だって やりとげたのだ おまえに できないことは ない！

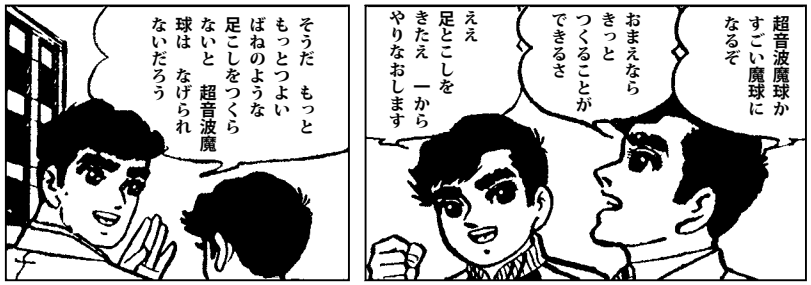
うむっ

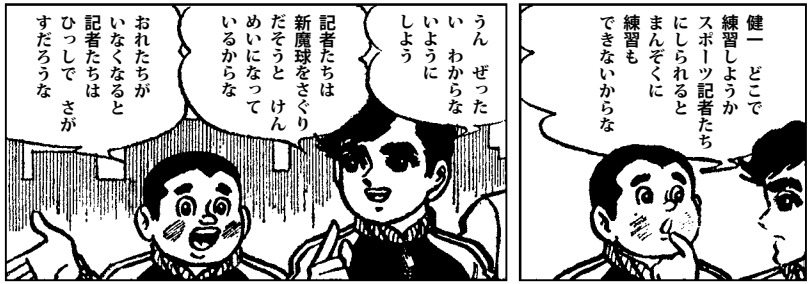
やります！ やってみせます！ どんなに くるしくても
やろうぜ おれも どこまでも つきあうぞ

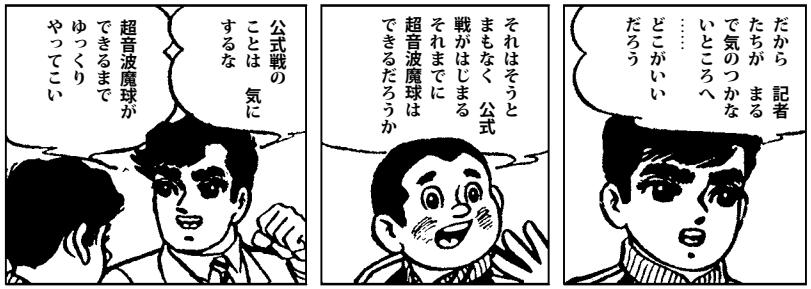
そうか がんばって くれよ 健一っ 田丸！
はい


ありがとうございました
おかげでヒントをつかむことができました
おやくにたててなによりです

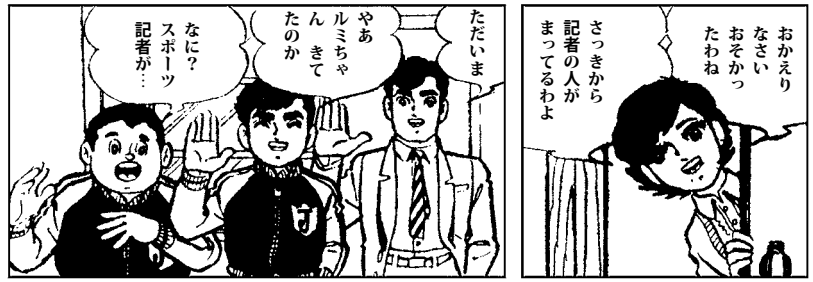
健一　佐々木にかてるヒントがつかめてよかったな
ええいっぺんに目のまえにあかるくなったような気がします


超音波魔球かすごい魔球になるぞ
おまえならきっとつくることができるさ
ええ足とこしをきたえ一からやりなおします
そうだもっともっとつよいばねのような足こしをつくらないと超音波魔球はなげられないだろう


健一　どこで練習しようかスポーツ記者たちにしられるとまんぞくに練習もできないからな
うんぜったいわからないようにしよう
記者たちは新魔球をさぐりだそうとけんめいになっているからな
おれたちがいなくなると記者たちはひっしでさがすだろうな


だから記者たちがまるで気のつかないところへ……どこがいいだろう
それはそうとまもなく公式戦がはじまるそれまでに超音波魔球はできるだろうか
公式戦のことは気にするな超音波魔球ができるまでゆっくりやってこい

公式戦のことはまかせておけ久里やほかの投手でなんとかするさ
あせらずにやってこい超音波魔球ができるまではぜったいかえってくるなよ！
はい…ありがとうございますきっとやりとげます


おかえりなさい おそかったわね
さっきから記者の人がまってるわよ

ただいま
やあ ルミちゃん きてたのか
なに？ スポーツ記者が…

ちぇっ また きてるのか…
きくことはわかっているんだ

佐々木にかてる魔球はできますか いつから練習しますか どんな魔球ですか…と きまってらあ
きくことはいつもおなじなんだからいやんなっちゃうよ

そんなことをいわないであってあげなさいよ
てきとうにごまかしとけばいいじゃない

おいおい！ きこえたぞ てきとうにごまかすなんてけしからんぞ ルミちゃん ははははは
おれは そんなけちなことをききにきたんじゃないぞ

あっ なんだ 朝夕新聞 スポーツ部の横井さんか
どうも すみません

横井さんとはしらず とんでもないことをいっちゃったな
うん 横井さんにはずいぶんおせわになっているもんな 毛利先生がしゅぎょうをしているところをおしえてくれたのも横井さんだ

どうも すみませんでした
いいよ 気にしてないから

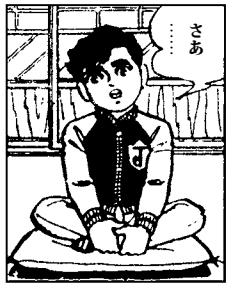
ところでこれからどうするんだい

永井博士のおかげで第三の魔球のヒントがつかめたんです

そうか それはよかった
ええ だけど どこで練習しようかとまよっているんです

こんどは そうとうな山おくにかくれても記者たちにしられちゃうんじゃないかと

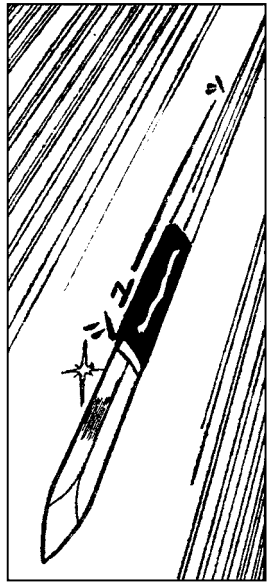
じつは そのことで そうだんにきたんだよ 健一くんはどこでやるつもりだ

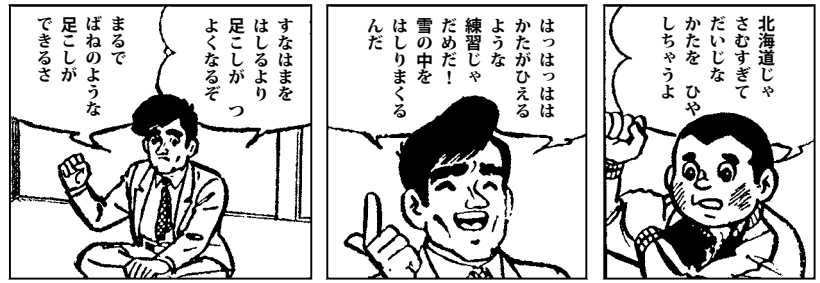

さあ……

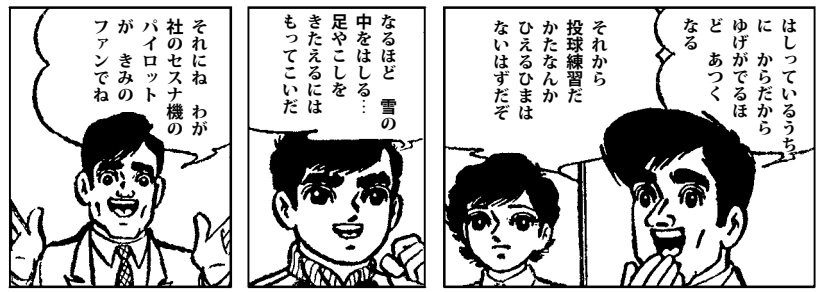
どうだい 北海道へいったら

北海道！ とんでもない まだ雪がふってますよ

だから 北海道へ いくんだ 練習はみんなあたたかいところでやる
だから そのぎゃくにさむいところでやれば 記者たちも 気がつかないと おもうんだ どうだね

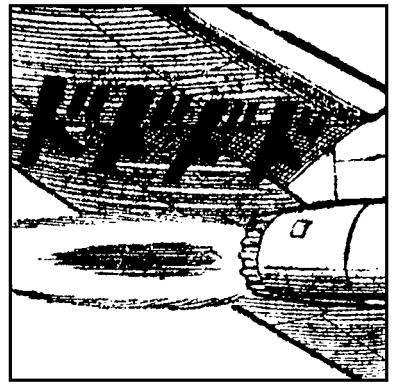


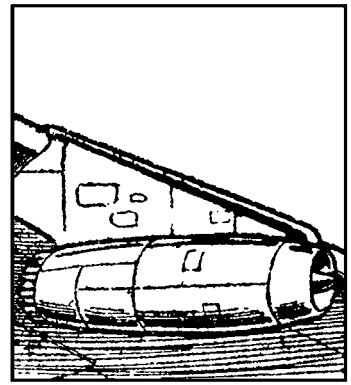

北海道じゃ さむすぎて だいじな かたを ひや しちゃうよ
はっはっはは かたがひえる ような 練習じゃ だめだ！ 雪の中を はしりまくる んだ
すなはまを はしるより 足こしが つ よくなるぞ まるで ばねのような 足こしが できるさ

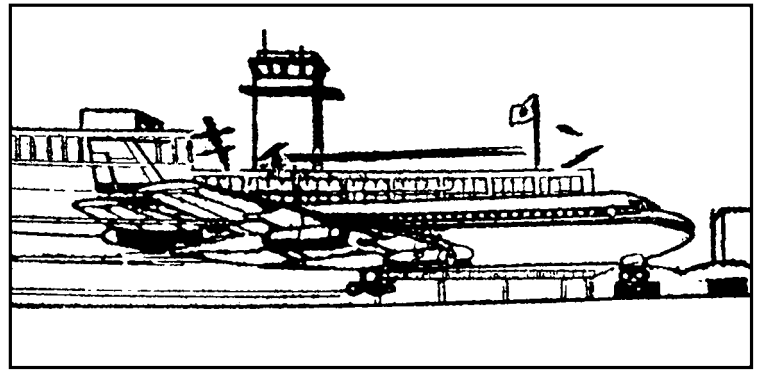

はしっているうちに からだから ゆげがでるほど あつく なる
それから 投球練習だ かたなんか ひえるひまは ないはずだぞ
なるほど 雪の 中をはしる… 足やこしを きたえるには もってこいだ
それにね わが 社のセスナ機の パイロット が きみの ファンでね

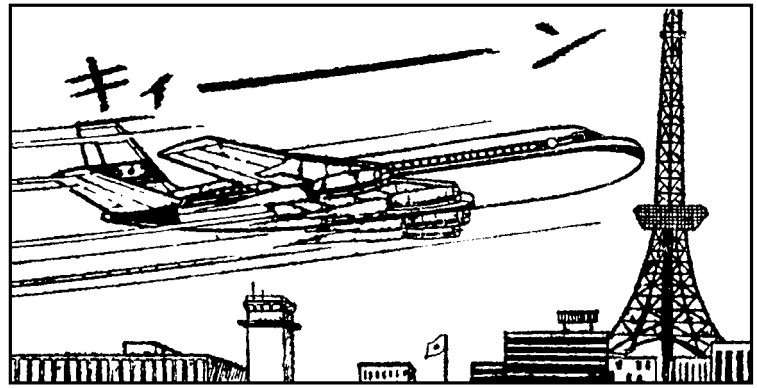
セスナ機が あ いているときは いつでも 投球の練習に かしてやるって てさ
え 投球の 練習に 飛行機 だって？
おっと それは 北海道へいって から おしえ てやるよ
どうだい いって みるかい

ふうん そうか 北海道も わるく ないな
横井さん ぼく 三村先生が いいといったら あすにでも 北海道へ いきます
まあ すてき あたしも いきたい な
よしっ それでは すぐ 三村くん に そうだん したまえ

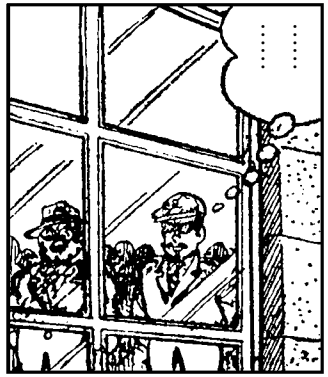


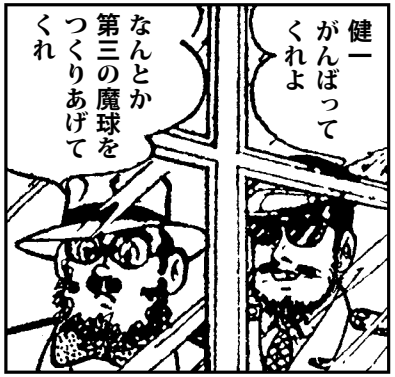



キィ
ン


キィーン

キィーン


……


健一
がんばって
くれよ
なんとか
第三の魔球を
つくりあげて
くれ